

# 半導体漫遊記

## 湯之上隆

⑭

3月30日、日本の原子力を強力に推進してきた重鎮16人が「福島原発事故についての緊急建言」を行った。この緊急建言は、国民への陳謝から始まっている。これまで日本の原子力をリードしてきたエリートたちがプライドも体裁もかなぐり捨て、率直に反省し、国民に深く陳謝しているの

である。名を連ねた16人各自が相当な覚悟をもって緊急建言に臨んでいると推察できる。緊急建言の要旨は次の通りである。「事態をこれ以上悪化させずに、当面の難局を乗り越え、長期的に危機を

増大させないためには、わが国が持つ専門的英知と経験を組織的、機動的に活用しつつ、総合的かつ戦略的に取り組むことが必須である。私たちは、国を挙げた福島原発事故に対処する強力な体制を緊急に構築すること

筆者は、25年前の2年間、大学院生としての原子核工学に関わっただけの者であるが、自分何かに疑問を抱き、自問自答を繰り返して来た。政府や行政機関は「直ちに健康に影響はない」というおなじみの言葉を繰り返しているが、もはやそんな言葉は誰も信用して、分かりやすい(た

とこの上ない。気を取り直して、首都圏のスーパーでは食品の産地が何処かヒリヒリしながら買物していることを説明したが、彼は、「大騒ぎしすぎなんだよ。出荷制限なんて無意味。食ったって何の問題もないよ」とのたまう始末である(しかし彼が「うちの子供には食べさせないけどね」と小声で言ったのを筆者は聞き逃さなかった。彼の師匠で

を強く政府に求めるものである。』  
筆者はこの緊急建言に注目し、日本の英知が集まることを大いに期待していた。ところが、この緊急建言をすぐに記事として取り上げたのは、4月2日の読売新聞と4月3日の赤旗だけであり、残念ながら世間では大きな話題にならなかった。

現在、福島県の小学校などでは、校庭の土壌からの放射線が問題となっており。また、福島県の近隣では、野菜、お茶、魚から基準を上回る放射性物質が検出されたなどのニュースが、日々、報道されている。

まごっちのような放射線検知器がでできないだろうかと考えてみた(図1)。

も鳴らす。ストラップまたはキーホルダーの先鋒である。また、緊急建言に名を連ねている16人の中の京大名誉教授の弟子の一人でもある。

この教授からの協力は諦めた。しかし、筆者はたまごっち型放射線検出器の製品化を諦めきれない。製品化にご協力いただける企業はないでしょうか?(半導体技術者・社会

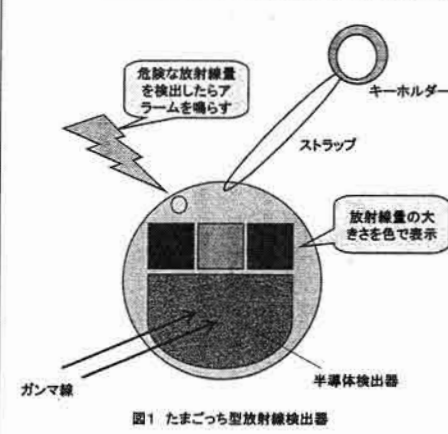


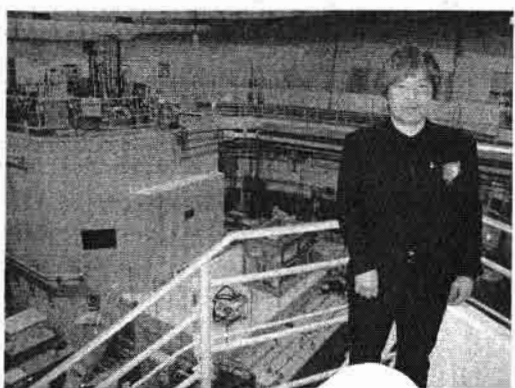
図1 たまごっち型放射線検出器

全員が放射線検知器を携帯し、すべての場所、すべての食物の放射線を測定すればいいのだが、それは現実的でない。なぜなら、既存の放射線検出器は、まず高い。安いものでも数万円。ちょっと機能が良く10万円になる。サイズも大きく、デザインも無骨

を過ごした時の二つ上またはキーホルダーの先鋒である。また、緊急建言に名を連ねている16人の中の京大名誉教授の弟子の一人でもある。

きつと力になってくれるだろう、そう確信していたのだが、この教授の第一声は、「そんなもん作ってどうするの? いったい誰が買うのかね?」であった! がっかりしたこ

# 放射線報道で疑心暗鬼 誰もが分かる検出器を



大学院生時代を過ごした京大原子炉と筆者